

世界はみんなつながっている

所属	犬山市立犬山南小学校	実践者	伊藤 樹李
対象	小学5年生	時間数	6時間
場所	教室	実践教科	学級活動
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガーナの人々やその生活から世界の多様性に気付き、日本との違いを肯定的にとらえる。 ・ 自分の生活と世界が繋がっていることに気付き、世界のみんなが幸せに暮らすために、できることを見つけ、実践意欲をもつ。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	1	◆みんなのガーナのイメージは？ ・ガーナのイメージをブレンストーミング・イメージ図に書き出す。 ・ガーナの絵や置物、楽器などに触れ、イメージを膨らませる。	・現地で購入したもの(国旗、楽器、雑誌、絵チョコレート等)
	2	◆日本とガーナの似ているところと違うところを見つけよう！ ・ガーナの紹介スライドを見て、ガーナの衣・食・住・学校等について知る。 ・日本と比較し、“似ているところ”と“違うところ”の対比表を作成する。	・ガーナで撮影した写真や動画(町の様子、食べ物、住居、衣服、人々の様子等)
	3	◆もしも・・・世界中の人達がみんな同じだったら？ ・「もしも世界中の人達がみんな同じだったら・・・」を予想し、考えを付せん紙に書き出す。 ・書き出された付せん紙を二次元軸(X 軸:世界のこと、5の2のこと、Y 軸:良いこと、あまり良くないこと)に分類し、良くないことが多いことに気付く。	
	4	◆どれも違っているのかな？ ・第2回で作成した対比表の“違うところ”を見返し、“あってもいい”違いと“あってはいけない”違いに色分けをする。 ・“あったらだめ”な違いをなくすために、どうしたいか願いをもつ。	・JICA 地球調査隊「いのち、輝け!」「世界の水問題」「学校に行けない子どもたち」
	5-6	◆世界みんなが幸せに暮らすために、できることを見つけよう！ ・ガーナの青年海外協力隊員が、ガーナ人のために自分のスキルを生かして活動していることを知る。 ・身近な人から世界中の人々が同心円状に繋がっていることに気付き、世界中の人々が幸せに暮らすためにできることを付せん紙に書く。 ・自分にできること、仲間とできること、国のできることの3つの視点からできることビンゴを作成する。	・ガーナで撮影した写真や動画(青年海外協力隊の方の活動の様子)
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は教師の体験した話や写真、実物等に触れ、ガーナに親近感をもち、世界の多様性に気付くことができた。また、日本との比較で、それぞれの良さに気付き、相違点も肯定的に受け止めることができた。 ・児童一人一人が、世界の幸せを願い、できることを一生懸命考えることができた。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域による“あってはいけない”違いを見つけた上で、児童一人一人が世界の諸問題についてテーマを決めて調べ学習等の探求的活動を取り入れられるともっと学習が深まったと感じる。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とガーナの相違点を肯定的にとらえていく中で、考えの異なる級友と自分の違いも肯定的にとらえ互いに認め合う場面が増えたことは非常に嬉しく感じた。 		

[授業実践の詳細]

1 時限目 「みんなのガーナのイメージは？」

1 子どもの活動の流れ

- ① グルーピング、アイスブレイキング
夏休みビンゴを実施し、4～5人にグルーピング。
その後、夏休みに1番楽しかったことを発表し合う。
- ② ガーナのイメージを書き出す
A3用紙の真ん中に大きくガーナと書き、グループでその周りに四方八方からガーナのイメージをブレインストーミングしていく。言葉だけでなく、イメージ図のように絵やイラストでも可とした。
途中、イメージがより膨らむよう、現地で購入した実物教材に触れる。〈教材1〉
- ③ 全体共有、ふりかえり
A3用紙を机の上に広げ、自由に席を立ち、他のグループのイメージを見る。
本時の授業の振り返りを書く。

この時限のねらい

- ① ガーナのものに触れ、ガーナに興味・関心をもつ。
- ② ガーナに対するイメージを絵や言葉で表し、今後の学習への意欲を高める。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 初めてのブレインストーミングで、はじめは戸惑う様子も見られたが、①質より量、②斬新なアイデア大歓迎の2点を伝えるとスムーズに手が動き出した。
- ◇ 児童から出たイメージは「ゾウ、キリン、チョコレート、狩りをしている、わらの家、黒人、ターバン」等。自然が多く、建物のあまりない草原のようなところをイメージしている児童も多かった。
- ◇ 現地で購入した雑誌や楽器は特に関心を惹いていた。
- ◇ 振り返りは以下の通り。

- ・私はガーナは暑い国だと思ったけれど、3班は寒そうと書いていました。どのグループのイメージも違って、実際はどんなところなのかとても気になります。
- ・ガーナの雑誌はカラフルな服がたくさん載っていて、見ているだけでおもしろかった。楽器も楽しいし、明るくて陽気な人達がたくさんいる国なのかなと思った。



〈ブレインストーミングの様子〉



〈イメージを出し合った成果物〉

3 使用した教材

〈教材1〉 ガーナで購入したもの
(国旗、楽器、雑誌等)

※これらは、教室の一角に“ガーナコーナー”を設け、そこに置き、児童がいつでも手に取れるようにした。

2 時限目「日本とガーナの似ているところと違うところを見つけよう！」

1 子どもの活動の流れ

- ① グルーピング、アイスブレイキング
バースデーラインを実施し、4～5人にグルーピング。
その後、「わたしのガーナ予想！」として、ガーナに絶対あると思うものを発表し合う。
- ② ガーナの紹介スライドを見て、ガーナを知る
ガーナの基本情報(面積、人口、公用語、気候、所要時間等)や町の様子、食べ物、住居、衣服等がまとめられたスライド<資料2>を見て、ガーナを知る。
- ③ グループで対比表を作成する。
様々な観点から日本と比較し、グループで“似ているところ”と“違うところ”の対比表を作成する。
- ④ 全体共有、ふりかえり
対比表をグループごとに回し、いいなと思ったものに☆をつけながら、共有する。
本時の授業の振り返りを書く。

この時限のねらい

- ① 教師の話やガーナの写真・映像からガーナを知る。
- ② 日本の生活と比較し、同一性や違いに気付く。

2 子どもの活動の成果・反応

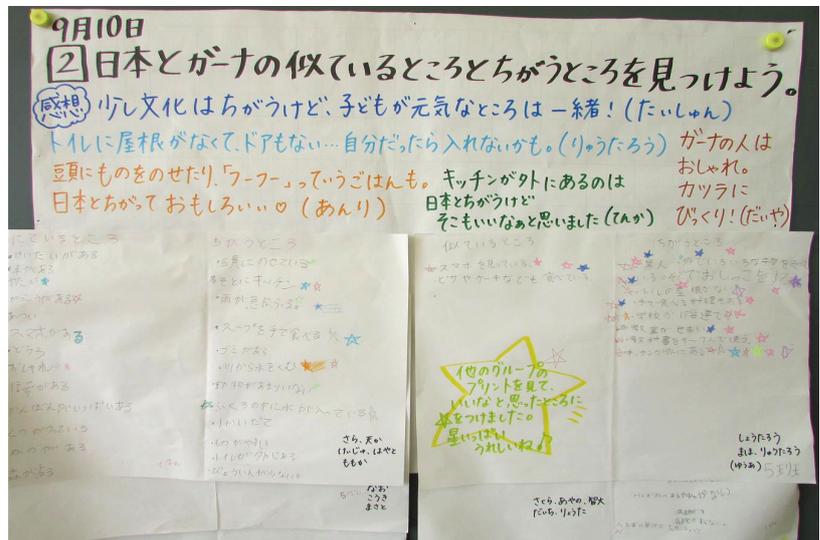
- ◇ 教材2は、教師の体験話やクイズを交えながら紹介したことで、興味を惹き、真剣に見入る姿が見られた。前時を思い出し、「思ったよりも都会！」という声も挙がった。
- ◇ ☆をつける共有法は、評価が可視化され、好評であった。
- ◇ 対比表の主な意見は以下の通り。

“日本と似ているところ”

- ・車がたくさん走っている
- ・スマホがある
- ・学校で勉強している等

“日本と違うところ”

- ・頭にものを乗せて運ぶ
- ・服やお金の単位、食べ物
- ・トイレに屋根がなくて不衛生
- ・病院がない等



<☆を付け合い、共有した対比表>

- ◇ 日本と違って楽しそうという意見と、違って少し不便そうだという意見のどちらも多く出た。どちらがいいではなく、ガーナと肯定的に出会い、ありのままのガーナを楽しく受け入れた様子が伺えた。

3 使用した教材

<教材2>

ガーナのスライド
(右写真は一部抜粋)



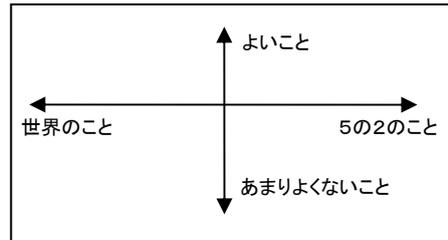
3 時限目「もしも…世界中の人達がみんな同じだったら？」

1 子どもの活動の流れ

- ① グループング、アイスブレーキング
好きな教科で、4～5人にグループング。その後、今まで友達とケンカしてしまった体験を発表し合う。
- ② “もしも世界中の人がみんな同じだったら”を予想する
まず個人で予想し、付せん紙に書き出す。その後、グループで似ている意見を集約し、それを二次元軸(資料1)に整理する。
- ③ 全体共有、ふりかえり
学級全体で二次元軸を作成し、共有する。
本時の授業の振り返りを書く。

この時限のねらい

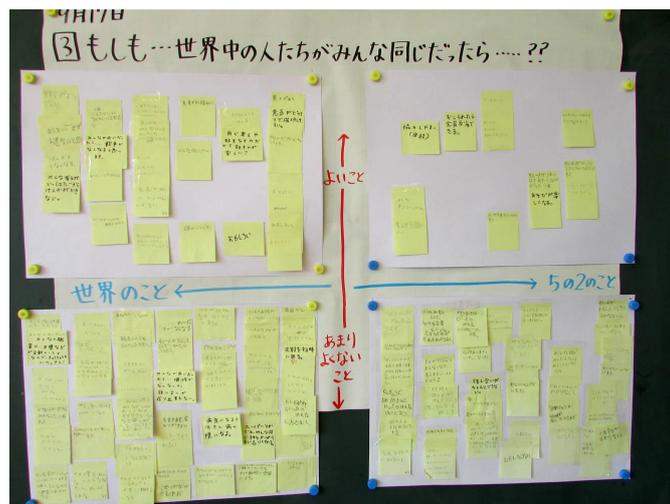
- ① もしも世界中の人がみんな同じだったらを予想し、世界は多様でこそおもしろいことに気付く。



資料1: 集約した意見を整理した二次元軸

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 個人で付せんを書いている時やグループで集約・分類した時は、“同じだといいいこともあるし、悪いこともあるね”という雰囲気だったが、いざ学級全体で二次元軸に共有すると、【あまりよくないこと】の方が多くことが一目瞭然となり、驚きの声も多く聞かれた。それぞれの分類の主な意見は以下の通り。



- ・人種差別がない
- ・戦争が起こらない
- ・貧困がない
- ・言い争わない
- ・言葉が通じて便利

- ・伝統がなくなる
- ・国の文化がなくなる
- ・伝染病が流行る
- ・世界がおかしくなって人はいなくなる

- ・けんかしない
- ・息ぴったりで遊びが楽しい
- ・団結できる
- ・おもしろい

- ・つまらない
- ・ほめることがない
- ・おもしろくない
- ・話し合いができない

<全体共有した二次元軸>

- ◇ 振り返りは以下の通り。

- ・よい事よりも、よくない事の多かったのでびっくりしました。戦争がなくなるのはすごくいいけれど、性格がみんな同じはつまらないから、やっぱりぼくはそんな世界いやだと思います。
- ・私はみんなが同じだったら、意見に乗ってくれるし人種差別も争いもなくなるから良いと思う。でも、個性や顔も全部一緒なんて考えただけで気味が悪い。今日、みんなの意見を聞いて最後に、こうやって話し合えるのはみんな考えが違うからだし、違うからこそうれしいこともあるのかなあと思った。

- ◇ 全体で意見を共有・交流する中で“やっぱりみんな違ってみんないい”という考えに至った。個性を大切にしつつ相手を認めていけば、今の世界も5の2も良いところが増えると発言した児童に共感が集まった。

4 時限目「どれも違っていいのかな？」

1 子どもの活動の流れ

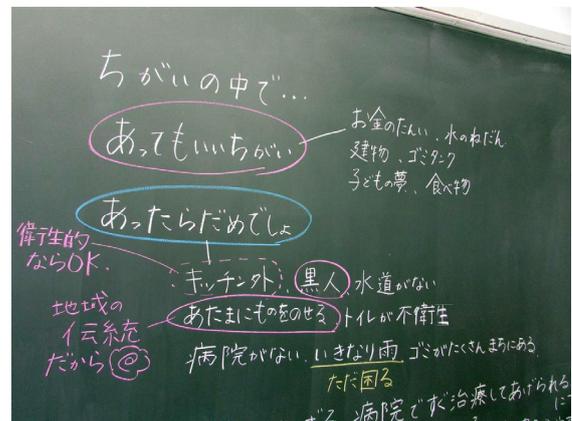
- ① グループピング、アイスブレイキング
第2時と同じグループでグループピング。
その後、予想他己紹介をし合う。
- ② 第2回で作成した対比表の違いを色分けする
グループで、対比表の“日本と違うところ”を見返し、“あってもいい違い”には赤色、“あってはいけない違い”には青色で丸をつける。その後、発表し合い、全体共有する。
- ③ 世界の水や衛生、貧困等の問題を知り、願いをもつ
JICA地球調査隊の冊子〈資料3～6〉を見て、世界には“あったらだめ”な多くの問題となる違いがあることを知る。それらをなくすために、どうしたいか願いをもつ。
- ④ ふりかえり
本時の授業の振り返りを書く。

この時限のねらい

- ① 多様性を尊重する上でも、貧困や格差等によるあってはいけない違いがあることを知る。
- ② あってはいけない違いをなくすためには、どうしたいか願いをもつ。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 前時で、“みんな違ってみんないい”と結論付けていたので、第2時で自分達の作成した対比表の中に“あってはいけない”違いがたくさんあることに驚いていた。
- ◇ 肌の色や頭にものを乗せることを“あってはいけない”違いに分類するグループがあり、それに対して「その考えは人種差別だ!」「地域には伝統や文化があるからこそ面白い」など活発な意見交流がなされた。最後まで決まらなかったのが、キッチンが外にあるという違いだったが、意見交流の後、それは文化による違いなのか、格差や貧困による違いなのかによるという結論に至った。
- ◇ 違いをなくすための願いとして、きれいな病院や学校を建てる、井戸や水道を作るなどの意見が出された。しかしその時、「でもそんなこと無理じゃない…?」というつぶやきが聞かれ、自分には何ができるのかと頭を抱える児童も見られた。
- ◇ 振り返りは以下の通り。



<全体交流の板書>

- ・ガーナにも病気やけがの人がいる。だから病院がないというのは絶対にあってはだめな違いだと思った。
- ・違いをなくすために、病院をつくることも水を買ってあげることもいいと思う。でも自分ではどうしたらいいのか分からなくて困った。
- ・今日、話し合いをしてみて、あってもいい違いとだめな違いは人によって基準が違うんだなと思った。だから、こういう違いが世界の中でいつまでもなくならないんだと思った。

3 使用した教材

- <教材3> JICA 地球調査隊 「いのち、輝け！」
- <教材4> JICA 地球調査隊 「学校に行けない子どもたち」
- <教材5> JICA 地球調査隊 「世界の水問題」

5-6 時限目「世界みんなが幸せに暮らすために、できることを見つけよう」

1 子どもの活動の流れ

- ① グルーピング、アイスブレイキング
行ってみたい国と地域でグルーピング。
自分にとって今いちばん大切なものやことを発表し合う。
- ② 青年海外協力隊の活動を知る。
海外で自分のスキルを生かし、様々な分野で活躍する日本人がいることを知る。〈資料6、7〉
- ③ 世界中の人々が幸せに暮らすためにできることを考える。
付せん紙に、自分にできること(ピンク)、仲間とできること(緑)、国にできること(青)の3つの視点を色分けして書き出す。グループで似ている意見を集約しながら整理する。その後、付せん紙をグループごとに回し、いいなと思ったものに☆をつけ、全体で共有する。
- ④ できることビンゴを作成する。
3つの視点から3つずつ選び、9マスビンゴ表に、できることビンゴを個人で作成する。
- ⑤ 振り返り
本時や単元全体の振り返りを書く。

この時限のねらい

- ① 世界の諸問題解決のため、海外で活躍する日本人がいることを知る。
- ② 身近な人から世界中の人々が同心円状に繋がっていることに気づき、世界中の幸せのためにできることを考える。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ガーナの青年海外協力隊員が自分のスキルを生かして、ガーナの人のために活動している様子から「技術支援」や「自分の得意なことを生かす」ことの大切さを感じていた。
- ◇ 自分の周りにいる人を、同心円状に繋いでいく作業を行い(資料2)、「世界は身近な人から繋がっている」ことに気付くことができた。
- ◇ 各色の付せん紙には、「募金をする」「病院を建てる」等の物的支援だけでなく、「ボランティアに参加する」「食品加工の技術を教える」等技術支援に関する内容も多く見られた。また、「周りのみんなに優しくする」「世界についてもっと知って、それを家族や友達に教える」、「野口さんや坂田さんのように得意なことを見つける」等の身近な内容も見られた。
- ◇ 共有では、自分の思いつかなかったアイデアに触れ、「これもいいね!」「確かに出来そう!」等の声が多く聞かれ、楽しそうに☆をつけていた。
- ◇ 児童の作成したできることビンゴの一例は以下の通り。



資料2: 身近な人から世界の繋がり



<付せん紙に☆をつけて共有>

自分にできること	仲間とできること	国のできること
周りの人と仲良く	仲間とば金の呼びかけ	技術を教える
寄付	リユース リデュース リサイクル?	病院建設
みんなに教える	ボランティア	国際的協力

自分にできること	仲間とできること	国のできること
ほまんの声かけ	手当ての仕方を考える	文ぼう具を送る
得意なことをしてあげる	ば金	物を寄付
相談!!	ポスターを作る(はり紙)	国でいろいろな物を作る人をガーナや外国に行かせてもらって屋根をつくらせる

- ◇ 前時では、自分に何ができるのか…と悩んでいた児童も自分なりの答えを見つけ、書き進める様子が見られた。
- ◇ 振り返りは以下の通り。

- ・私はまず周りの人から大切にするという考えがいいなと思いました。そして、それがどんどん繋がっていけばもっといいなと思います。
- ・1人で何でもやるのは無理だけど、仲間とやればできることはたくさんあると思った。
- ・私は日常生活に必要な技術を教えてあげればいいと思いました。何でもかんでもやってあげるんじゃなくて、自分達で命をつないでいけることを学べるようにしたいです。
- ・今の自分にできることは少ないけれど、いつも外国の人たちのためにできることを考えていたら、自分ができることは増えると思います。だから毎日考えて、アイデアを増やしたいし、いつかボランティア活動もしてみたい。

3 使用した教材

- <教材6> ガーナの青年海外協力隊の写真と映像(教育:野口さん、竹部さん コミュニティ開発:坂田さん)
- <教材7> JICA青年海外協力隊の職種要請一覧

■ 全体を通して

1 授業の様子

- ◇ 本校では毎年、全校でユニセフ募金に参加している。本単元を学習後の児童は、積極的に募金や全校に向けた呼びかけに取り組んだ。

2 参考文献・資料

- 1) ユニセフホームページ
<http://www.unicef.or.jp/>
- 2) ユニセフ手帳(日本ユニセフ協会配付)



<ユニセフ募金の様子>